

DataSpider Servista



エリオットグループ

世界中の石油化学プラントなどで使用されるコンプレッサーや蒸気タービンなどの設計・製造を行う。荏原製作所を親会社に持ち、エンジニアリングと製造の拠点を千葉県袖ヶ浦市と米国ペンシルバニア州に持つ。

所在地：千葉県袖ヶ浦市中袖20-1
 創立：2011年
 資本金：450百万円（2017年12月末現在）
 従業員数：単体441名（2017年12月末現在）
 URL：<https://www.elliott-turbo.com/jp/>

（取材日：2018年4月）

POINT

操作性の良さにより
 経験ゼロの実務担当者による
 開発を実現

1

定型業務の自動化により
 リードタイムおよびコストが
 1/2に削減

2

ユーザーからの
 業務改善アイデアをカタチにできる
 土壌が整備

3

定型業務を自動化しRPAを実現！ 情報システム部門の働き方と ユーザーの業務効率を大幅改善へ

荏原製作所を親会社に持ち、コンプレッサーや蒸気タービンなどの設計・製造を行うエリオットグループでは、全社で働き方改革を推進し、知的生産性の向上に取り組んでいます。情報システム課は、基幹システムの補完ツールとしてDataSpider Servista（以下、DataSpider）を導入。全社の業務改善にも活用することで、同社の働き方改革に貢献する部門へと進化しました。さらに注目すべきは、開発経験のない社員が開発業務を担ったこと。チーム内の働き方も変えた取り組みでした。

課題

対策

効果

- 基幹システム（ERP）へのアドオン開発は属人化、コスト増の課題を抱え、ユーザー部門からの改善要望への対応が追いついていなかった
- リードタイムの短縮やコストダウンを目的に、業務の効率化、自動化を進める必要があった

- DataSpiderを導入し、ERPのアドオン開発をスピーディーに行えるように改善
- ノンプログラミングで開発できる特性を活かし、開発未経験者が開発を担当

- RPAを実現し、様々な業務が自動化。従来と比較するとリードタイムは60%、コストは50%削減
- ユーザーからの業務改善アイデアを叶える土壌ができた
- 定型業務に就いていた社員の働き方を変えた好例として社内で注目

システムの構成イメージ



DataSpider Servista

RPA (定型業務の自動化) により、考える業務へのシフトを

石油精製・石油化学プラントで使用されるコンプレッサーや蒸気タービンなどの設計・製造を行っているエリオットグループ。受注生産が基本で、設計から調達、製造、アフターサービスまで一貫したサービスを提供しています。その中で情報システム部門は、社内のITシステムやインフラの構築、維持管理、その機能改善、さらにITを活用した業務改善のサポートなどを担っています。

近年は、全社でリードタイムの短縮・コストダウンに取り組み、ITを使った業務効率化を進めています。それに伴い、社員は今まで以上に「考える業務」へシフトすることが求められるようになりました。情報システム部門では、ITによる業務効率化のサポートを率先して行っていますが、当初は大きな課題があったといえます。

アドオン開発の属人化とコストが業務効率化の課題

飯田氏 2015年に基幹システムとしてERP (Oracle EBS) をカットオーバーし、利用しています。そのアドオン開発には高度なスキルが必要で、属人化と開発コストが課題でした。ユーザー部門からERP関連の業務に関し、当初15件くらい機能改善の要望があったのですが、我々はその対応に四苦八苦。外注もしながら、スキマ時間を利用して追われるように対応していました。

そもそもERPの導入には業務改善や効率化というテーマがありましたが、要望を挙げてにもかかわらず実現されないため、ユーザーも改善に対して消極的になっていきました。これでは業務改善が進みません。我々ももっと効率的な開発ができないか、模索を始めました。

当時、ユーザー部門からはどのような要望があったのですか。

森川氏 代表的なものは、帳票に関する要望です。帳票ツールでERPのデータを印刷するのですが、例えば「1枚目に宛名、2枚目に注文書、3枚目に納品書」のような、用紙毎にレイアウトが異なる組み合わせ帳票の出力には対応していませんでした。そのためプリンターの前で印刷が終わるのを待ち、別の用紙をセットして再度待ち、という手間が発生していました。

DataSpiderを検討するきっかけは何でしたか。

森川氏 実は、以前からDataSpiderのことは知っていて、我々が実現したいERPのアドオン開発に使えるのではないかと考えていました。アシストには別の製品で質の高いサポートをしてもらっており、サポートに関して安心できたのも大きかったです。

DataSpiderなら、将来的に、帳票以外にも様々な業務で利用できるという期待もありました。



森川 智行氏

基幹システムを担当し、DataSpiderの導入・実装を推進

DataSpiderを使った開発により、働き方に変化が生まれる

DataSpiderでの開発は、技術者ではない方が担っていると伺いました。

飯田氏 DataSpiderの良いところは、アイコンを使ったわかりやすいGUIです。これを見たとき、一般職として採用された、チーム内で定型業務に就く社員でも開発ができるのではと思えました。定型業務を担当する社員は、業務内容を熟知しているので手順を詳細化でき、その真価を発揮できる仕事になると考えたのです。

そこで、矢後さんがDataSpiderの開発担当者として抜擢されたのですか。

矢後氏 最初は「できるのかな…」と不安でした。私は情報システム部門に在籍していますが、開発やプログラムのことは全く知らず、未知の世界でしたので。でも、DataSpiderはアイコンが並んで処理のフローが見えるので、入りやすかったです。

森川氏 知らない作業をするのは、誰でもストレスを感じるもの。最初は、私が組んだものを模倣してもらってるところから始めて、手を動かしながら全体理解につなげました。「できた」という感覚を、早い段階で感じさせることが大事だと思います。

飯田氏 アシストの研修にも参加してもらいました。でも、だからといって、「研修に行ったからできるでしょ」とは絶対に言わないと決めていまし

た。なんとなく覚えているくらいでいい、やるうちに覚える、というのが合言葉でしたね。

矢後氏 徐々に使い方を覚えていき、5~6本ほどの仕組みをDataSpiderで開発しました。今は、私自身が担っている定型業務だけでも作業時間は以前の1/2になりました。減った分の作業時間は、他部署の業務改善にまつわる開発に充てています。まだまだ勉強中で大変ですが、変わっていかねばいけないし、それが評価されるのは嬉しく、良いことだなと思います。

飯田氏 DataSpiderというツールを活用することで、技術者ではなくても開発に携われるようになりました。定型業務に就いていた社員の働き方を変えたことも、一つの好事例として捉えられています。

ユーザーの業務が圧倒的に効率化！業務改善がさらなるアイデアにつながる

DataSpiderによってどのような業務改善が実現しましたか。

森川氏 一番の課題であった組み合わせ帳票の出力、印刷までを自動化することができました。プリンターの前で誰かが待つ必要もなくなり、全体として50%の工数削減につながりました。また、ERPに対するデータの「一括参照と一括更新」を、担当者がExcelファイルから行えるようになりました。さらに製造工程では異常データを自動検知し、アラートメールを通知できるようになるなど、様々な業務がDataSpiderによって改善されています。今は、機械のセンサーデータとも連携し、機械の動きや作業状況を大型ディスプレイに表示するIoTダッシュボードも計画中です。

ユーザーからの機能改善をスピーディに叶えられるようになり、社内ではどのような変化がありましたか。

森川氏 ユーザーから「こういうのもできないか?」「時間がこれだけ減るんだけど、どうかな?」など雑談レベルで話しに来てくれることが多くなりました。ITでの業務改善が進むにつれ、さらに業務改善のアイデアが出てくるといふ好循環が生まれているのを感じます。

飯田氏 今は、RPAの第一歩を踏み出した段階です。今後も、様々なデータ連携ができるDataSpiderの特性を活かして社内のあらゆる定型業務を自動化し、業務改善を図っていきます。

<取材協力>

エリオットグループ 管理部 情報システム課